

食と農の結びつきの強化に向けて



(株) マルイ
代表取締役社長 松田 欣也
中国四国農政局長 勝山 達郎

6月の食育月間に、岡山県津山市を拠点としたスーパー（株）マルイの松田社長（岡山県教育委員会委員長）と中国四国農政局勝山局長が食と農の結びつきの大切さについて懇談を行いました。

マルイは社内に「食育推進室」を設け、平成19～21年度には「にっぽん食育推進事業」を実施するなど地域での「食育」に積極的に取り組んでいます。

食育は永遠のテーマ

【松田社長】 国のモデル事業で3年間食育事業に取り組んできましたが、食育を浸透させるのはなかなか時間のかかることだと感じています。

【勝山局長】 食育は永遠の課題ですね。行政も同じで、中国四国の地域を豊かにしていくことが農政局の役割だと思っています。そのためにも現場主義で地域の皆さんの声を直接聞くことが大事です。今日、松田社長とお会いし、お話をお聞きすることも大変よい機会だと思っています。

食育に取り組んで

【勝山局長】 BSEの発生が発端となり、知育、徳育、体育の基礎となる食をもう一度考え直す必要があるのではないかということで、政府全体で「食育」に取り組むことになりました。

17年7月に「食育基本法」が施行され、今では食育について、9割以上の方が関心を持っていただいています。

【松田社長】食育に取組み、特に昨年度は、流通経路の見学のほか農業者や食品メーカーが一体となつての地産地消イベントなどに取り組みました。メーカー各社も特に中国支店の方の食育への意識は高まっており、行政の後押しは大変心強いです。

今年は、津山市のノースランド店にキッチンスペースを設け、来店者にも広く食育、料理の楽しさなどをアピールしていき、同時に津山・真庭圏域の地場野菜も直接扱いたいと考えています。



一步踏み込んだ「食農教育」を

【勝山局長】食育は、朝食の欠食や栄養バランスといった健康面については、いい方向で浸透してきました。

農林水産省としては、これからは、食の背景にある農産物について、どこで、どのように、農家がどんな知恵をしぼって生産がされているのか、動植物にはいのちがあり、食べるということはいのちをいただいているということなどを伝えることが大切だと思っています。このため、「食育」の一環である「食農教育」として“食の大切さを農業とともに考えよう”をテーマに、一步踏み込んだ取組をしていきたいと考えています。

【松田社長】私も同感ですね。食育は、そういう広がりが必要だと思います。商売人が道具にしてもいけないし、地域全体で食料自給率のこと、食品廃棄のことを考えていくことが必要ではないでしょうか。産地に対する理解や食べものに対する感謝の気持ちが欠落しては、食育は始まらないのではないかと思います。

マルイとしてもフェイス to フェイスでお客様と接し、食材のことを伝えていきたいと考えています。

今年は、さらに産地との連携、地域との連携に取組み、単に健康面だけではなく、次のステップに上がっていく食育事業の展開ができればと思っています。

地域食材を大切に作る創業からの理念

【松田社長】 マルイは、昭和6年に創業し、昭和30年には西日本では初めてセルフサービス方式によるスーパーマーケットを開業しました。創業者は、どのお客様にも公平な商いがしたいと考え、たどり着いたのがスーパーマーケットでした。店をどんどん増やしていくのではなく、地域に密着し、地域の食材を十分理解した上で、お客様に提供するという創業からの理念が食育と合致したのだと思います。



また、地域の農業についても大変危惧していて、我々も土壌を作って行かなくてはと思い、農業法人についても考えたことがあります。土地の問題やまた、自分たちがほんとうに農業を支えていけるのだろうかという葛藤もあり、どこを切り口にしていったらよいかという戸惑いがあります。

【勝山局長】 今まで農業者は農作物を作ることは一生懸命でしたが、消費者の声は耳にすることが少なく、一方消費者は農業に無関心ということがみられました。これからは、食と農を結ぶ絆の構築、国民全体で農業を支えていくことが必要です。

新しい食料・農業・農村基本計画（22年3月閣議決定）では、「国民全体で農業・農村を支える社会」の創設を掲げ、取り組んでいくこととしています。

地域農業への熱い思い

【松田社長】 農業者も高齢化していく中、農業が一つの職業として成り立つよう我々も地域の農業を支えたいと考えています。そのためには農業を理解することが大切だと思っています。

また、物流センターの提供など出荷の多様化についても提案したいし、夢を持ち意欲のある若い農業者と直接話がしたいと思っています。

【勝山局長】 夢を持ち経営感覚の優れた農業者はたくさんいます。先程、社長のお話にあった創業からの理念に通じるもので、親が農業の大切さややりがいをしっかり教え、それを引き継いでいる方が多いです。

農業者や流通販売業者さらには消費者のみなさんが意見交換を行い、もっと交流することが必要だと考えています。

地域を元気にしたい

【松田社長】川上から川下まで一体感を持って取組むことはとても大事です。

また、社内にも温度差がありますので、これから、各店舗における食育の取組を発表会などで共有する他、社員が集まる場で農業をどう考えていくのか、地域をどう考えていくのかなど、食と農の知識を高めるための勉強会をしたいと思っています。

【勝山局長】地域で農業を支えるという気持ちを持つ方が1人でも増えてくれれば大変心強いです。特にスーパーなどの小売業の方は、毎日消費者と接するなかで、生の声や色々なニーズを直接聞かれる機会も多いと思います。多くの消費者の方に食材を通じて農業や食生活への関心を高めてもらうような取組をお願いしたいと思います。

農政局としても、これからも現場を大切に、地域の農業を元気にし、地域活性化に取り組んでいきたいと思っています。